

広島県竹原市の忠海（ただのつみ）港から、約15分ほどの乗船で目的地に着く。

大久野島。この周囲約4キロの小島は、国立公園に指定され、夏は海水浴場を主とした家族客でにぎわう。また、宿泊をはじめ、温泉、キャンプ場といった施設があり、サイクリングやテニス、釣り、夏には屋外プールもオープンしている。「うさぎ島」と呼ばれるゆえんのウサギたちは、うららかな春の日差しを受けながら、日向、木陰へと気ままに草を探しに、ゆっくり飛び歩き、旅行者にも寄っていく。約700羽もの野生のウサギが棲息する島。



⑥約700羽の野生ウサギが棲息 ⑦忠海港の駐車場も満車に

近年までは、広島県の小さな島の海水浴場であった。しかし、14（平成26）年頃にインターネットの無料配信動画

一般財団法人日本不動産研究所④

地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

広島県大久野島うさぎ島

動画配信で一躍脚光

癒やし求め観光客が増加



で「うさぎ島」と紹介されたことから、外国人旅行者が増えていると聞いた。しかし、寒い季節に、海水浴場を主とした地域へ人は繰り出さないのである。ましてや、わざわざ海外からなんて。そんな思いで、真実を確かめにやってきました。

確かに、10年前には外国人らしき旅行者はいなかったと記憶している。今では欧米系、アジア系の人たちが、ウサギに向かって大きな一眼レフカメラを構える。しかし、思った以上の人数ではないので、宿泊施設の受付の方に聞いてみた。「海外からのお客様は、近年は休日、平日問わず、韓国、東南アジア、香港、スペインと、地域を限定することなく増えており、団体旅行としても来られる」とのことであった。うわさは正しかったようだ。ただ、それよりも私は国内旅行者の多さに驚いた。大きなフェスティバルや娯楽施設はなく、ただウサギがいるだけの島。しかし、大久野島へ向かう忠海港の駐車場は満車状態が続き、船上では子供たちの無邪気な声が響きわたる。ウサギたちに会える期待感は相当なもの

なのだろう。海外からの旅行者は、夜行性のウサギたちに癒やしを求めて宿泊する。海外からの旅行者が集まる島に興味を抱いた国内の人たちも出掛けてくる。癒やしの対象が優しい生き物であるのだから、ベビーカーを引いた若い家族客も多く、年齢層が幅広い。インバウンドからの国内活性化、この相乗効果を小さな島で垣間見た感じであった。

今後は環境についての保全やウサギたちと旅行者との相

互の安全対策に心配ると共に、かつてこの島には毒ガス工場があったことや、毒ガスを製造した過程で多くの犠牲者を出した悲惨さを、島内の砲台跡、発電場、毒ガス貯蔵庫から知ること、平和を学習する場としても訪れることを期待したい。

続けて竹原市中心部の町並み保存地区も訪れた。製塩の町として重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている。江戸時代を彷彿する風情をもった観光地である。大林宣彦映画監督の尾道三部作と



江戸時代の風情がある観光地化した市中心部の町並み保存地区

をかける少女」のロケ地としても使われており、その空気にも浸りたかった。近年ではNHK朝の連続ドラマ「マッサン」の舞台でもある。幸いにも数年前と変わらぬままの保存状態で、掃除が行き届いた石畳の上を歩くのは気持ちいい。だが、行き交う旅行者は少ない。周囲に駐車場が少ないことも気になる。

竹原市観光入込客統計調査結果では、大久野島は4年連続で増加傾向である一方で、竹原市全体では旅行者が減少傾向であることを発表している。旅行者の興味が大久野島という点から竹原市全体へと同心円状に波及する要素は、視点を交えれば見つかる気がした小旅行であった。

（中四国支社、不動産鑑定士・仁王頭毅）